

令和 5 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立和歌山ろう学校

校長名： 山本 博之

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

聴覚障害教育の専門性を発揮し、本校はもちろん県下すべての学校等における聴覚障害のある幼児児童生徒が自立し、貢献し、自己実現ができるとともに、豊かな社会を創る担い手として活躍できる力を育てる学校

学校評価の公表方法

児童生徒総会、PTA 総会、学校運営協議会、職員会議、ホームページ等の場において公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（月 日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	聴覚障害教育における専門性の継承と向上	B	聴覚障害児教育に関する研修の充実	研修の実施（年9回）			
			聴覚活用の実態に応じた合理的配慮の検討と提供	「個別の指導計画（自立活動）」に反映できているか			
			聴能、発音・発語、自己理解、言語についての研修	教科研におけるグループ別研修（年7回）			
2	教育課程および授業の改善	C	授業力向上を目指した研修の充実	学部研の実施（年8回）と公開授業研究会の実施			
			「個別の指導計画」の作成と活用についての充実	検討会の実施（年5回）			
3	センター的機能の充実と情報発信	C	ホームページを活用した本校の教育活動等の情報発信	ホームページのリニューアル			
			インスタグラムを活用した本校の教育活動等の情報発信	教育相談関係等フォロワー25名獲得			
			県内聴覚支援体制（4校連携）の整備	教育相談活動の協働と分担、研修の実施（年9回）			
4	学校安全についての充実	B	学校安全部及び学校安全委員会（新設）による危機管理の集約	組織として体制を作り、運用できたか（年4回）			
			訓練計画の作成と実施	新たな視点による訓練が実施できたか（年6回：寄宿舎を含む）			
			大規模災害（地震津波）時の避難計画についての近隣地域の情報収集	近隣校等との防災計画の情報交換（保、園、小、中、高）			

学校関係者評価（月 日実施）

--

令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立和歌山ろう学校

校長名： 山本 博之

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

聴覚障害教育の専門性を発揮し、本校はもちろん県下すべての学校等における聴覚障害のある幼児児童生徒が自立し、社会貢献し、自己実現ができるとともに、豊かな社会を創る担い手として活躍できる力を育てる学校

学校評価の公表方法

児童生徒総会、PTA 総会、学校運営協議会、職員会議、ホームページ等の場において公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（2月15日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	聴覚障害教育における専門性の継承と向上	C	聴覚障害児教育に関する研修の充実	研修計画の作成と実施（年9回）	A	自立活動をテーマに年9回計画通り実施できた。	個別指導計画（自立活動）の作成実施における学部とゆかりの連携を一層進める。学部研、教科研等と連動させる。校内人事を活性化させ、OJTによる力量の向上を図る。
			聴覚活用の実態に応じた合理的配慮の検討と提供	個別の指導計画（自立活動）に反映できているか	A	個別の指導計画の作成と運用について、学部とゆかりが連携して実施できた。	
			聴覚活用の実態把握力の向上	グループ研修等での研修（年6回）	D	専門性の高いグループ研修については年2回実施できた。	
2	教育課程および授業の改善	C	各学部の年間指導計画における系統性の観点からの改善	国語、社会（生活）、算数・数学、理科（生活）、外国語の改善	A	年9回実施により、改善できた。	公開授業研究会の継続実施。学部研や教科研等の職員研修を連動させ、専門性の高い聴覚障害児教育としての授業の質の向上を図る。
			授業力向上を目指した研修の充実	学部研の実施（年11回）と公開授業研究会の実施	A	学部研の実施年10回と公開授業研究会の実施ができた。	
			授業におけるICT機器活用スキルの向上	研修の実施（年4回）	B	① 情報保障 ②電子黒板、TEAMS ③伝達講習	
3	センター的機能の充実と情報発信	C	ホームページを活用した本校の教育活動等の情報発信	ホームページの改善と更新（月1回）	A	ホームページ試作中。ひよこだより月1回、ゆかり更新	ホームページの全面リニューアルの実施。Instagramも活用した本校の教育活動を発信する。
			聴覚障害児支援中核機能モデル事業との協働	福祉（相談員等）との情報共有、協働ができたか	A	月1～2回担当者連絡会議月1回管理職打ち合わせ	
			県内聴覚支援体制（4校連携）の機能発揮と充実	教育相談活動の協働と分担、研修の実施（年9回）	A	和歌山県教育オーディオロジ－研究協議会年8回実施。	
4	防災への備えの充実	B	防災係、防災委員会の新設による課題の整理と対応	組織として体制を作り、運用できたか（年5回）	A	年5回実施。	防災や防犯に関わる学校安全全体についてマニュアルの整理を行う。学校組織としてのよりよい在り方を検討し、令和6年度実施を目指す。
			将来を見据えた避難訓練計画の見直しと実施	新たな視点による避難訓練が実施できたか（年3回）	C	地震津波1回、火災1回、地震1回（新しい取組）	
			防災関連備蓄品の点検と今後備蓄するものについての計画作成	備蓄品の点検ができたか（年2回）計画が作成できたか	A	備蓄品点検実施。計画作成中。	

学校関係者評価（2月16日実施）

令和4年度学校評価より（2月実施）
 〈概ね評価をいただいた点〉
 ○教育の目標や重点の提示ができています。
 ○子どもたちは明るくいそいそとした学校生活を送っている。
 ○他の学校にはない特色がある。
 ○健康や安全に関する指導が適切に行われている。
 ○授業がわかりやすく充実している。

〈今後の課題として〉
 ○保護者や地域の方の意見を取り入れ、より連携した教育活動が必要である。
 →教員との意識に差が見られる。真摯に受け止め懇談等で個別の教育支援計画「つなぎ愛シート」等も活用しながら取り組んでいく。学校行事や奉仕活動、防災への取り組み等を通じて、地域の方と連携を深めていく。
 ○学校の活動を広く知っていただくための活動が必要である。
 →HPやInstagramを活用し発信を充実させる。学校行事等を通じ、本校の取り組みをより知っていただけるよう取り組む。進路に関する情報等は、全教員が研修を行いながら、すべての教員が卒業後の視点を持った指導と相談体制の充実を図る。
 ○豊かな体験活動を通して、社会人として生きていくための力を育成する必要がある。
 →感染症への対策はとりつつも、近隣校の協力をいただきながら交流及び共同学習の活性化を図る。教員が身近なモデルとなりあいさつ、身だしなみ、言葉遣い、時間を守るなど基本的なマナーの指導を図る。
 ○教員の手話力、授業力を向上させる。
 →教員の手話研修を充実させる。公開授業研を含め、授業改善に関する研修を図ると共に、来年度は自立活動について研究し、個別最適な学びの充実を図る。